

委員会研修報告

文教厚生常任委員会

8月7日・8日にかけて次の通り視察してきたので報告します。

(1) 8月7日(木) 10:30～ 福山市 【循環排水再利用水洗トイレ】
 福山市沼隈運動場に設置されている循環排水再利用水洗トイレを視察。最初に必要な水をいれれば新たに水を必要としない循環型水洗トイレ設備であり、6層のタンクで段階的にろ過し、カキ殻に付着する微生物によって原水を浄化し、中和する。最後に活性炭で臭気除去、透明度を高めて水洗トイレ用に再利用する。カキ殻は江田島産で、ネット袋詰めされたものを購入しており、カキ殻需要増加を期待したい。



▲ 循環排水再利用水洗トイレを視察

(2) 8月7日(木) 13:30～ 神石高原町 【廃校利用】
 統廃合された小中学校の校舎を高齢者の生活支援施設や託児所、学童保育に利用している。江田島市の統廃合した学校施設の利活用を地域再生の視点にたって早急に検討すべきである。

(3) 8月8日(金) 10:00～ 出雲市平田支所 【廃食油軽油代替燃料化事業】
 宍道湖の水質保全を目的に旧平田市が平成13年度からてんぷら油などの廃食油を回収・精製を実施し、合併後の出雲市に引き継がれる。

設備投資 : 2,309万円 (機械2,170万円、建物・給油施設139万円)
 ランニングコスト: プラント等償却費を含む 85.7円/ℓ (償却費を除く 55.8円/ℓ)
 処理能力 : 400ℓ/日 (アルカリ触媒法)

本庁・支所・コミュニティーセンター・保育所等46箇所に回収ポイントを設け、回収作業はシルバー人材センターが月一度回収し、平成18年度は回収量34,146ℓ、精製量37,800ℓで139万円の収益。代替燃料は市所有ダンプ・バス・フォークリフトなど12台で使用しているが、最新のディーゼルエンジンには軽油と混合しなければならず、品質改善が必要ということである。最近では設備費が低価格となっており、環境問題の一環として江田島市も早期研究・調査すべきである。

本委員会所管の国民宿舎、交通船事業関連の視察研修を7月8日・9日の日程で実施しました。
 まず、宿舎事業関連では、三重県亀山市関町の「国民宿舎 関ロジ」を研修。関ロジも能美ロジと同様、昭和42年のオープンで平成4年をピークに現在は低迷を余儀なくされている。そうした中でも、途中新館増築をはじめ、ブルートレインの設置などにも、一般会計からの補助も受けず全て自主財源で賄ってきているとのこと。しかも現在約1億円の基金積み立てがあり、経営面では全国でも高く評価をされています。施設老朽化をはじめ、現在の宿泊ニーズに合わない間取りなど、検討すべき課題は山積していますが、職員数の適正化をはじめ、徹底したコスト削減の検討、地域からより愛される施設づくりへ向けて職員一丸となったの営業努力。その必要性を強く感じました。次に、交通船事業関連では、

企業会計特別委員会

当定期船事業は、昭和29年の市制施行以来、民間からの航路権譲渡を経て昭和53年から現在の5航路に6隻(予備船を含め7隻)を投入し、常時運航をしています。全航路とも数ある離島と鳥羽本土とを結ぶ重要な生活航路としての機能を持ち、人を運ぶと共に種々の生活物資輸送手段として、大きな意義を持つ事業となっています。ここでも離島住人の減少による輸送量の減少が進む中、国・県等の補助金の削減、また燃料価格の高騰から経営が圧迫されており本市と同様、毎年赤字補てんとして一般会計から一定の算出基準により、1億円前後補てんしているのが現状です。
 鳥羽市も本市も、今後も公営の生活航路として末永く確保していくためには、人件費等をはじめ、よりきめ細かなコスト削減に向けての経営努力と、併せて行政、市民間の信頼関係の上に立った痛みの分かち合いの必要性を強く感じました。



これで善いか！ 行財政改革
 前田 鎮夫 議員
 答 計画を見直しながら実施

前田 江田島市を持続するためにには行財政改革は必須でありますが、この4年間の改革で歪みを省みる事はないか。
 国・県政においても改革を実施した結果「市民の痛み」をみて、改革の修復も取り上げられている。これから改革プランの見直しができるに当たり、次のことについて伺いたい。

高齢者に大きい「痛み」
前田 市の行財政改革は、改革大綱に沿って平成17年から実施されてきたが、平成18年、地域の最も身近な役所窓口の出張所や連絡所の一部が統廃合された。
 改革プランによると現

在ある出張所も統廃合となつている。高齢者には遠くの役所窓口では不便で負担が大きく、これから更に高齢者は増えていくことから、出張所の回復、また、行財政改革大綱の見直しが必要ではないか。
市長 今日まで実施してきた行財政改革には、痛みを伴ってきているものも多い。出張所の統廃合についても行財政改革の効果はあったと考えている。統廃合により対応に不足するところは、担当及び地域の市職員をして補っていく。

赤字公営企業・徹底した経営改善を
前田 厳しい行財政改革

をする中、赤字続きの公営企業などに対して事業維持のため毎年多額の経費負担をしている。返せばこれは市民の負担です。本来受益利用者負担が原則である企業事業として、市民生活の安心安全に大きな影響ある部分は、別の支援措置も考え、経営改善方法、事業譲渡も含めた見直しが必要ではないか。



▲ シーサイド温泉のうみ

市長 公営企業については、企業発足当時の事業を必要とした事情、その後の経緯もあり、設立当初から社会事情も様変わりしているが、これから更に経営改善に努め、経費の縮減、事業のあり方も考えながら取り組みたい。

傍聴感想文

【初めて傍聴しました】

議員さんの質問事項、内容がよくわからない点が多いのに驚きました。そして、市長が一人でできるものではない。給料をもらっているのだから、議員自身も給料をもらっているのだから、議員自身もきちんと自覚していますか、と問いかけた。気持ちでした。

(匿名)

【傍聴席で感じたこと】

- 1 議会中に議員の席あけが目立つ。
- 2 執行部の答弁は、出だしは聞き取れるが、最後まではつきりと聞き取れない。
- 3 執行部の答弁中、手を腰に置いての答弁は考えて欲しい。(N・N)

